

「地域の水と共に生きる！」

- 2019年 年頭にあたり -

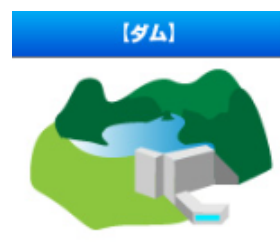
新年明けましておめでとうございます。当コラムをお読みいただいております読者の皆様に改めて感謝申し上げます。本年も「地域の水と共に生きる」を宜しく願い申し上げます。

『御代替わりの年にあたり』

本年は御代替わりです。本年4月には新しい年号が発表され、新しい時代が訪れます。長く紡がれてきた日本の歴史が新しい時代に入ります。



今ある日本の発展は、戦後の動乱期から未来に繋がる多くのインフラに支えられてきました。インフラは



欠かせない社会の下部構造です。これらインフラは、その語源であるinfra-(インフラ)という言葉が意味する通り、必ずしもその全容を目にすることも意識できるものでもありません。常に見えるものでもなく意識されるものでもない社会インフラは、日本での豊



かな暮らしや経済の発展を、絶え間なく支えてきました。御代替わりを迎える新年にあたり、日本という国の素晴らしい歴史への思い



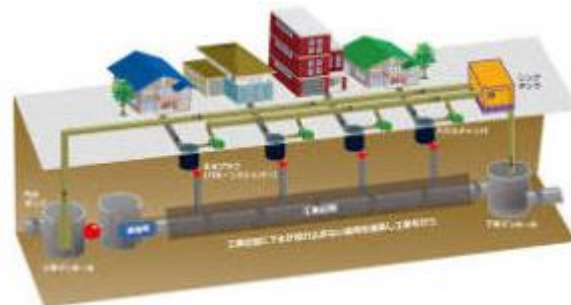
をはせながら、その歴史の一端を支えてきたインフラの重要性を感じます。そして、先人の方々の輝かしくそ

して苦心のにじむ業績に対し深く敬意を感じないではられません。

そのようなインフラの一つが地域の暮らしや経済に欠かせない地域の水循環を支えてきた下水道インフラです。下水道インフラは、「使った水の道」として、

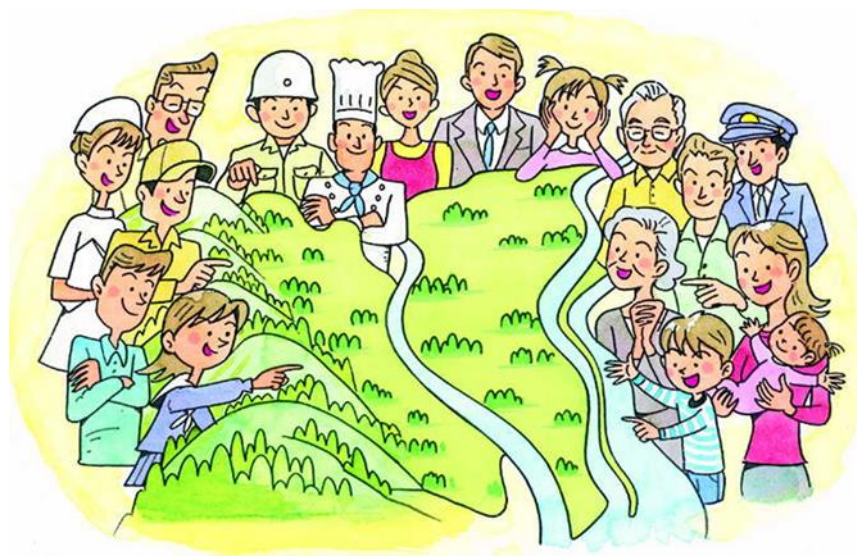
「雨水の道」として、替えの利かないインフラです。

地域の自然や地形に適した下水道インフラは、地域の水循環を支えてきましたし、そしてこれからも支えていくのです。



『未来につなぐ地域のインフラ』

社会インフラあっての地域の暮らしと経済です。下水道インフラあっての地域の水循環です。これまでの地域を支えてきた社会インフラ、地域の水を支えてきた下水道インフラは、過去から今に繋がり、そして、これからの時代に繋がる欠かせない社会資本なのです。



今後、各地域において、どのように必要な社会インフラ、そして下水道インフラを整備し残していくことができるのか、これは自治体だけでなく地域の住民・企業のすべての方にとっての重要な課題だと思います。この課題は放置して解決する課題ではありません。2018年

は民間活用のより大きな潮流を実感できる一年でもありました。2019年は、自治体と民間がさらに一体となって下水道整備を進めていく新しい時代になるのではないのでしょうか。一つの選択肢だけではありません。様々な民間活用方法が地域の事情に応じて作り上げられていく — そのようなインフラ整備元年を目指したいと思います。新しい時代が始まる平成最期の年頭にあたる当協会の思いです。